

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	60	学校名	吉城高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	住みよい社会づくりのために自ら行動できる人材を輩出してきた高校として 飛騨の地域資源を活用した協働的で探究的な学びを通して 未来を創る基礎となり、地域や社会で活躍する学力と実践力の育成を目指す学校
------------------------	--

学校教育目標 (教育方針)	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。
------------------	--

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒
	生徒をどう育てるか 【CP】	・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施
	どんな生徒を待っているか 【AP】	・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒

学校の抱える課題	・生徒間に学力差があり、基礎学力に課題を抱えた生徒も多い。 ・対人関係を構築していく能力に課題を抱える生徒が増えてきている。 ・少人数教育の環境下で個々の学力や進路希望に対応したきめ細かい指導をしている一方で、その魅力が十分地域に伝わっていない。 ・探究活動が活発になるほど教員の時間外労働時間と精神的負担が増える。持続可能なカリキュラムの設計が必要である。
----------	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	地域とともにある魅力ある高校づくりを進める 教職員が生徒一人一人としっかりと向き合うことができるように、教職員の働き方改革を進める
	学習指導	授業改善と学習指導の充実を努め、主体的・協働的に取り組む態度を育てる 「地域に根付いた地域に愛される地域に貢献できる学校づくり」を通じ、課題解決能力を育てる
	生徒指導	共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる 自らが健康で安全な生活を営む能力や態度を育て、環境美化を通じて豊かな心を育成する
	進路指導	生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように計画的・組織的に支援する

年度目標 年度末評価(自己評価)

領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学校経営	① コミュニティ・スクールの機能を充実させることで、教職員・地域住民・保護者による目標・ビジョンの共有を図り、学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営を行います。	施策Ⅰ-7	①③学校運営協議会委員、保護者による評価他 ②中学生の進路希望調査、1日入学参加者数 ③生徒・保護者による学校評価 ④勤務時間調査、校長面談、職員アンケート	① 学校運営協議会委員からの意見を取り入れ、学校経営を推進	B	○意見を取り入れ、文化祭で古川中学校と連携企画を実施したり、地元企業見学会を実施したりした。▼理科教科の魅力発信と周知に力を入れる。	B
	② 「普通科」、「理数科」それぞれの特色ある教育課程により、地域人材や教育資源を活用した魅力ある教育活動に取り組みます。	施策Ⅳ-20		② 「ESD」「理数探究」「課外活動」等のYCK活動をとおり課題解決型学習を普通科、理数科ともに実践	A	○普通科、理数科の探究活動では大学、市役所、企業、地元の人々に協力を得ながら、生徒の主体的な活動を支援できた。	
	③ 地域連携によるふるさと教育の推進と課題解決に取り組む学習を充実させます。	施策Ⅰ-4		③ 果や飛騨市の助成金を得ながら地域の人材や資源を活用したふるさと教育の実践	B	○調査において「自分の住んでいる地域や企業について知っている」という項目では県平均より高い結果となった。	
	④ 職員の勤務の適正化を図り、業務の平準化に努めます。	施策Ⅳ-27		④ 出勤システムの入力等勤務管理の徹底、面談、アンケートを通して勤務状況の把握	B	○管理当番等働き方の見直しを通じてより働きやすい職場環境の整備した。	
学習指導	① 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、アクティブラーニングを推進し、思考力、判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、新しい価値を創造する力を身に付けさせます。	施策Ⅱ-8	①生徒による授業アンケート、教員相互の評価 ②③授業アンケート、卒業生アンケートの評価、生徒・保護者等による学校評価 ④YCKプロジェクトへの参加生徒数	① 研究授業・公開授業による指導力向上	B	○研究授業や公開授業を通して教科を横断して意見を交流し、授業改善に取り組めた。	B
	② 少人数学級や習熟度別授業、進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援を行います。	施策Ⅱ-8		② アンケート調査による学習活動の点検と改善	B	▼学校アンケートのICT機器の有効な活用についての肯定的意見が増加した。ICT活用についての情報共有や研修を充実させる必要がある。	
	③ 理数科独自としてipa dなどを活用して授業の改善を行い、校外研修、理数探究、出前講座を充実させて、課題解決型の能力、資質を育成します。	施策Ⅱ-9		③ 理数科独自の行事や、授業におけるipa d活用方法の検討・見直し	B	○生徒を対象に行ったアンケートでは概ね良好な結果が得られた。▼地域の方へ理数科の取り組みを伝えきれていない現状がある。	
	④ 地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」の活動を通して、生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てます。	施策Ⅰ-4		④ YCKプロジェクト25の活動に延べ1,048人	B	○より学びの多いプログラムを作ることができた。▼YCKプロジェクトへの生徒の理解度と参加人数が減少している。	
生徒指導	① 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに、指導の共通理解、共通行動を行い、生徒の自律心、判断力、責任感を育みます。	施策Ⅰ-3	①いじめ防止等対策検討会議での評価(弁護士・SC・地域代表・育友会長他) ②生徒・保護者・職員への生活安全調査(年3回)生徒・保護者による学校評価、ネット・SNSによるトラブルの増減等 ③球技大会や柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況、部活動加入率、参加・活動状況、大会成績等 ④健康診断受診勧告者受診率、生徒委員会の取り組み状況、減災力テスト実施前後比較、非常変災時帰宅確認報告率、生徒・職員による安全点検、防災士資格取得数	① 日常の学校生活や調査等からの情報共有、組織対応・情報モラル指導の実施・いじめ認知件数の減少	B	○生徒アンケート項目「いじめを許さず、厳格に対応」「先生方は親身になって相談に乗ってくれる」において、肯定的意見が増加した。▼生徒のコミュニケーションスキルの向上は依然として課題である。○教員のスキルアップを目的とした生徒対応を学ぶ「生徒支援ミニ研修」の実施は成果である。○生徒心得について考えさせ、自律心と責任感を育むきっかけとした。	B
	② 生徒の状況や情報を常に把握し、職員間で情報を共有しながら日常的な教育相談活動と生徒支援を行います。	施策Ⅰ-3		② 日常の教育相談活動と情報共有による生徒支援の実施・スクールカウンセラーの活用	B	○柏葉祭や校則改定等の課題に、生徒会を中心に全校生徒のものとなるように動き、少しずつ改善に向かった。▼部活動の加入率が減少傾向にあるのは課題。	
	③ ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、部活動、委員会活動等の諸活動を通じ、生徒たちが協働し、集団の中で望ましい人間関係を構築することを支援します。	施策Ⅰ-1		③ 柏葉祭への中学生を含めた来場者の増加、校則改定への取り組み、部活動加入率80.6%結果(陸上東部東海大会出場)	B	○防災リーダー、防災係が飛騨市役所と連携して防災教育を行い、減災力テストの数値向上。防災士資格取得者本年度10名受講。防災タウンウォッチング、避難所運営訓練に参加。▼地域の防災活動への参加が課題。	
	④ 健康教育(健康診断や健康意識向上活動)や防災教育(命を守る訓練など)を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度を育てます。	施策Ⅲ-19		④ インターンシップ、分野別説明会、各種職業説明会の実施	B	○生徒の進路希望に合わせてインターンシップや各種説明会を行い、キャリアについて考える機会を提供できた。	
進路指導	① 生徒が自己の適性や能力を理解し、生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成します。	施策Ⅱ-13	①進路希望調査の結果や説明会等での振り返り内容 ②共通テスト出願者数、大学合格実績、公務員合格率等 ③各種調査及び模擬試験等の結果 ④生徒の身に付いた能力を評価する指標の活用、YCKプロジェクト報告会	① インターンシップ、分野別説明会、各種職業説明会の実施	B	○面接、小論文指導では担当制を基本とし、必要に応じて複数教員で指導を行った。▼実力が伴わない学校へ複数出願し、指導担当に負担がかかる事例が出てきた。▼文章を読み取る力や表現する力が弱い生徒が多く、長期的な指導が必要である。	B
	② 3年間を見通した進路指導計画(補習、模試、面接小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援します。	施策Ⅱ-8		② 国公立大学共通テストなし(総合型選抜・学校推薦型選抜)5名中1名合格、公務員志望者6名合格	B	○ここ2年のルーブリックでは、いずれも能力が身についたと評価する生徒が多い。YCKプロジェクトを通して自身のキャリアと向き合うことができた。	
	③ 生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行います。	施策Ⅰ-7		③ 進路説明会の実施、保護者進路説明会の実施	B		
	④ YCKプロジェクトを通して自らのキャリアに向き合い、社会的・職業的自立を促すとともに、社会の中で自らの役割を主体的に果たそうとする態度を育てます。	施策Ⅱ-13		④ ルーブリックによる評価を実施	B		

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月30日 学校関係者評価 実施日：令和8年2月6日

(学校経営)(教務)(生徒支援)(進路支援)(特別活動)(保健厚生)	本校の魅力発信と飛騨地域の中学生・保護者・中学校教員への宣伝の工夫。特に理数科の宣伝強化する。学科・コースの特色を生かしたカリキュラムの再編成とICT活用についての情報共有や研修の充実を図る。よりよい生活を自分たちで考える機会を充実させ、生徒のコミュニケーションスキルの向上を図る。保護者や学年会と連携をより深め、引き続き個に応じた指導を行っていく。生徒心得の改定などの成果を受けて、今後につなげていく。部活動加入状況減少の原因の調査の実施。防災教育、熱中症対策(WBGT測定)を促す中で、防災に対する意識向上と危機管理能力向上を目指したい。また、学校の老朽化に伴い、生徒・職員の安全管理体制をより一層強化する必要がある。
(キャリア推進部)(理数科)	生徒が身につけた力、地域で活動した経験から学んだことをより意識し、キャリアに生かせるよう振り返りを充実させる。YCK活動の学校内外への広報をより充実させる。中学生やその保護者に対して本校理数科の特色を伝える工夫をしていく。
	・文化祭、防災訓練、探究報告会等、地元中学校との連携が増えて喜ばしい。 ・飛騨市では、小中高通じて地域に根差した教育活動が行われている。この地域への思いが、「将来もこの地域に住みたい」という思いにつながることを期待したい。 ・アンケート結果から吉城高校では自己肯定感が高い生徒が育っているといえる。 ・理数科の希望者が減っていることについては何が課題で何が必要か分析することが必要である。 ・本校の生徒は、探究学習を通じて大学や研究機関だけでなく、市役所、企業、農家、お寺等様々な大人とつながれる。このように吉城高校が探究学習ができるのは、飛騨市をはじめ地域の人々が本校の活動を下支えしているからである。